

いじめ早期対応事例について考える

「A先生がB子の母親の電話を受けた」時点から、翌日の放課後までの間の対応について、いつ、誰が、どのような対応をするのかシミュレーションしてみましょう。

場面Ⅰ：B子の母親からの連絡



ある日の朝、A先生が職員室で授業の準備をしていたところ、B子の母親から電話があった。（これ以降の対応をシミュレーションしましょう。）

B子の母親の話では、昨日、B子が家に帰ってから一人で部屋に閉じこもっているので、理由を何度も聞いたところ、「何でもないから。自分で解決できるから大丈夫。」と答えたそうである。B子の母親に「学校で何かあったのですか？」と尋ねられたが、A先生には思い当たることなかったため、「特にトラブルがあったようには思いません。いつも元気なB子なので心配はいらないと思いますが、念のために話を聞いてみます。」と答えて電話を切った。



場面Ⅱ：B子との教育相談



その日の放課後、A先生はB子を相談室に呼んで話を聞こうとしたが、B子は涙ぐみ、なかなか話そうとはしなかった。A先生は、「話をしてくれないと、分からないよ。」と言った。B子はしばらく黙っていたが、重い口を開き、同じ委員会活動のC子（クラスは別）とうまく話していないことを話した。C子に話し掛けても無視をされたり、友達と話をしていても、その友達をC子が連れて行ったりするようである。A先生は、B子に「この後、C子を呼んで、私が話を聞いてみるよ。」と言って、B子との教育相談を終えた。

